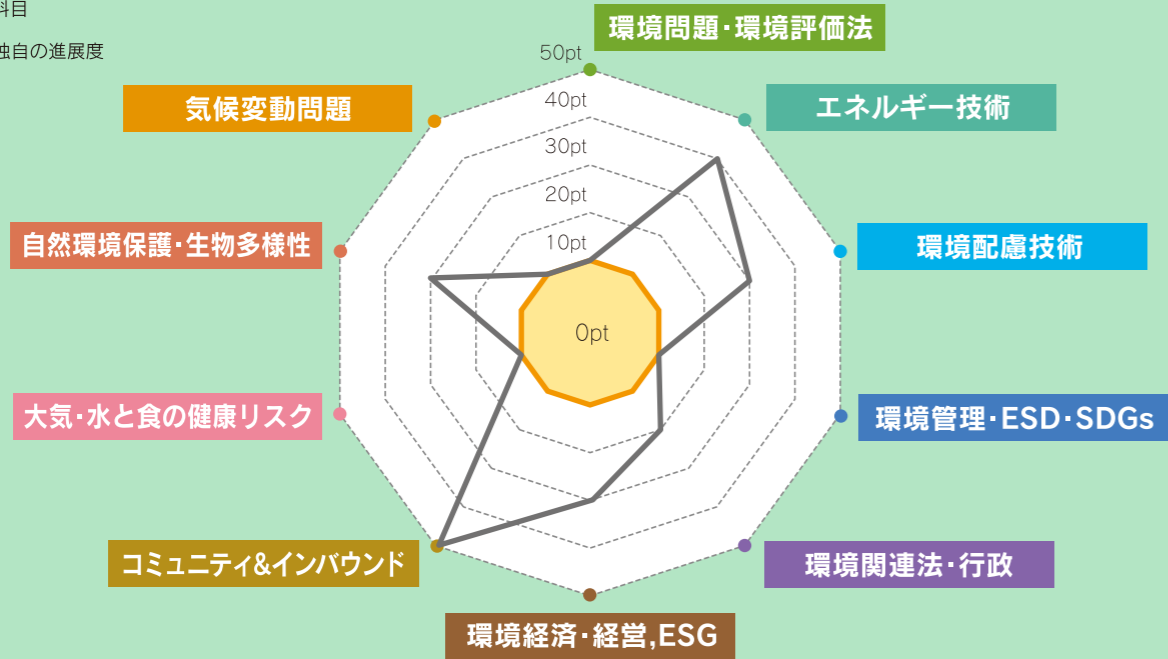


地域環境科学分野と各分野進展度評価例

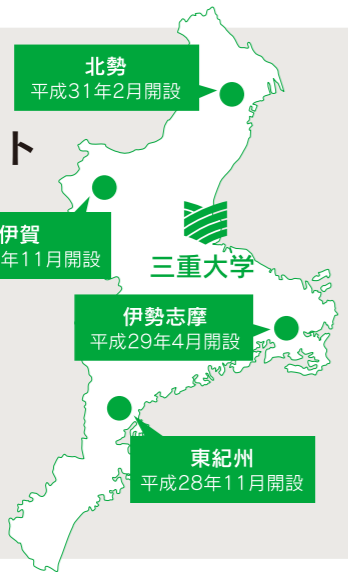
下記レーダーチャートで受講者ご自身の進展度を確認することができます。

- 必修科目(各分野の概論)
- 選択科目
- 各人独自の進展度



三重大学 地域拠点サテライト

三重大学では4つの地域拠点サテライトにおいてもサイレッツの事業展開を行います。



平成30年度

- 持続可能な社会づくり活動表彰
- 公益社団法人環境生活文化機構会長賞
- 第1回エコプロアワード 奨励賞

SciLets ビデオ講義の受講申し込み

1 ホームページから申し込み

<https://scienv.mie-u.ac.jp/>

上記アドレスをご参照の上、申込フォームに必要項目を入力し送信してください。

2 電話で申し込み

TEL 059-231-6986

受付時間/ am9:00~pm4:00 (平日)

お電話でお申し込みの方には受講申込書を郵送いたします。ご記入のうえ返信もしくはご持参ください。

無料法人会員

連携パートナー募集中

連携パートナーには『科学的地域環境人材』育成事業に関するお知らせやニュースをお送りさせていただきます。また連携パートナーは、受講料が割引となる場合がありますので、詳細はホームページなどでご確認ください。



社会人・企業・行政の皆様へ ver.5.5

『科学的地域環境人材』育成事業

SciLets



科学的知識を持つ環境人材が地域を活性化します

三重大学は地域に必要とされる「科学的地域環境人材」を育成し、環境保全と地域振興を目指します
地域とは、地球全体に対し、皆さんの住まわれているところ＝市町村や都道府県、日本を意味します

LCA (ライフサイクルアセスメント) に基づいた科学的な環境評価ができる人材

ISO14001 (環境マネジメントシステムに関する国際規格) の意義を理解できる人材

温暖化対策法、廃棄物処理法、生物多様性条約を理解できる人材

地域の自然の魅力を見出し、観光産業などによってインバウンドを喚起できる人材

自然エネルギーや環境配慮技術に関する事を事例を基に学習・応用できる人材

気候変動枠組み条約など、環境に関連する専門知識を有する人材

環境をテーマに産官学民での異分野・異業種連携を主体的に促進できる人材

経済学的見地から、再生可能エネルギーなど地域の環境価値を見出し、地域を活性化できる人材

『科学的地域環境人材』育成事業についてのお問い合わせはこちらまで

国立大学法人 三重大学 国際環境教育研究センター

TEL 059-231-6986 FAX 059-231-9859

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

<E-mail> scilets@gecer.mie-u.ac.jp

<WEBサイト> <https://scienv.mie-u.ac.jp/>

サイレッツ 検索

後援: 三重県 環境省中部地方環境事務所 地域協働機関: 株式会社百五銀行 岡三証券株式会社 北伊勢上野信用金庫



第1回エコプロアワード 奨励賞受賞



持続可能な社会づくり活動表彰 公益社団法人 環境生活文化機構会長賞受賞

SciLets 三重大学『科学的地域環境人材』育成事業は 全国・世界に広がる環境保全・地域振興の仕組みです。

SciLets = Scientific, Local and Environmental “Talented Staff”

地域環境の保全と、地域に多く賦存する環境価値の活用による地域活性化を目的とし、「ビデオ講義によるアナリスト／エキスパート認定」「異分野・異業種交流」「共同研究」などを通じて「科学的地域環境人材」を育成します。

- このような方・団体におすすめです
- 環境保全に興味があり、地域を環境価値・環境科学により振興したい方
 - 環境担当者の専門教育を行いたい企業や自治体
 - 環境担当者の初任者教育をOn the Job Trainingにより行いたい企業や自治体

アナリスト／エキスパート認定について ～「科学的地域環境人材」育成のための「講義／研究交流」～

SciLetsビデオ講義を受講することにより、アナリスト／エキスパートの認定を取得することができます。

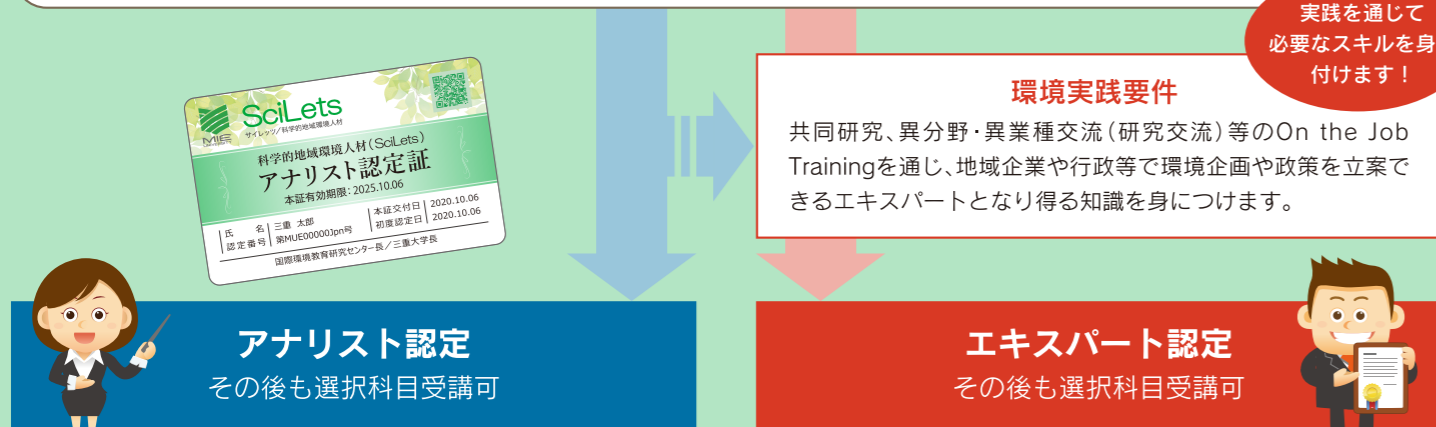
※エキスパート認定については環境教育要件(講義受講)以外に環境実践要件を満たす必要があります。



環境教育要件(アナリストコース・エキスパートコース共通)

必修科目	選択科目
<p>基本の10分野をカバーする 「地域環境科学概論」 (ビデオ講義 1科目1.5時間×10科目=15時間)</p>	<p>4科目を選択 (ビデオ講義 1科目1.5時間×4科目=6時間)</p>
<p>14科目の受講料 14,000円</p>	
<p>理解度確認テスト(各科目ごと)</p>	

※修業年数に制限はありません。また、ご希望に応じ、5科目目以降の選択科目を受講することができます。 その場合、[受講料] 1,000円/1科目
 ※受講者は、受講中も認定取得後も専用ソーシャルネットワークSciLetsを利用(無料)することができ、地域の環境保全・地域振興に貢献していくことができます。
 ※サイレッツにおける「1科目」とは、1.5時間のビデオ講義を指します。



SciLets ビデオ講義の開講科目／「地域環境科学概論」基本10分野

環境問題・環境評価法	「地球環境問題」について、最近の動向と科学的な評価法について解説する。まず地球環境問題では、公害から環境問題顕在化の歴史やその意義、さらに地球環境問題にはUNFCCC(国連気候変動枠組み条約)で議論されている気候変動問題や地球酸性化、健康リスク、生物多様性など多面的な問題があること、並びにそれらの概要を解説する。次に、環境負荷に関する評価方法と評価結果が持つ意味について解説する。日常生活のひとつ一つが環境負荷を及ぼすことにまず気づき、環境負荷を分析・評価できるLCA手法を知り、実際に行う手順を調べ、事例について分析・評価そして改善策を見出すスキームを紹介する。
エネルギー技術	人々の生活の利便性の向上や開発途上国の経済伸長とともに、世界的にエネルギー多消費の時代となってきた。これに伴い生産活動も活発化し、地球温暖化に代表される環境の変化が天候の異変を起こしたり、生活環境を脅かすようになってきている。本科目では温暖化やエネルギー消費の実情、エネルギーの需給や省エネルギー・再生可能エネルギーの進展の状況を紹介します。また世界的に対策が最も進んでいると言われる我が国の省エネルギー技術と国内外での実施例を紹介します。
環境配慮技術	地球環境負荷の低減と地球環境との共生は、非常に重要なテーマの一つになってきている。このような状況の中で、現在、様々な環境配慮技術が注目されており、次世代の有効な技術として、幅広い分野で応用されてきている。本概論では、「環境配慮技術」について、農業系と工業系の観点から解説する。農業系においては、生物の生息・生育環境に視点を置いた環境配慮対策、農業土木の開発と環境配慮技術、コンクリートのリサイクル及び環境負荷低減等を紹介します。一方、工業系においては、環境負荷低減を指向した排水処理技術と排ガス処理技術を講義する。
環境管理・ESD・SDGs	本概論では、組織体が環境管理をする上で前提とするマネジメントとマネジメントシステムについて解説する。マネジメントシステムでは、昨今の国際規格(ISO)の考え方(ハイレベルストラクチャー:ISOマネジメントシステム規格の共通構造)の概要についても説明をする。また、本概論には、平成24年10月1日に施行公布された「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」に関しても一部解説をする。
環境関連法・行政	地球上に現存する環境上の諸問題は、基本的に人間の経済的な活動という、本来有用な活動の副作用として発生したものである。したがって、その否定的な側面を完全に抑制してしまうと、今後は人間生活そのものが成立しなくなる。それではどうするか。環境破壊行為をする者に対して、主として国家がその活動の一部を強制的に抑制するしかない。経済活動が基本的な人権であるとするならば、そのような抑制措置は主権者国民の意思の反映によって制定された法律で根拠づけられる。環境法規とは、このような場合に国家のとるべき手段とその限界、その考え方を規定したものである。
大気・水と食の健康リスク	本概論では、環境要因による健康影響について特に、大気・水・食品に注目して解説する。過去、大気や水質の悪化は公害という大きな社会問題を引き起こし、また重大な食中毒事件もたびたび発生している。現在においても、大気汚染や水質汚濁、食品がもたらす健康被害が生じている。本講義では、大気汚染や水質汚濁をもたらす化学物質による健康被害とそれらを防止するための環境保全について解説する。さらに、食品の健康リスクについて、HACCPにおけるリスク分析を基に生物学的危害、次いで化学的・物理的・物理的危険について述べ、これらの対策と併せて食品成分表示の見方や賞味期限・消費期限の意味について説明する。
自然環境保護・生物多様性	本授業では、講義テーマの出発点として重要な概念である「生態系」とは何か、から始まり、次いで国際的な合意である「生物多様性条約」とは何か、そして地球サミットで提唱された「持続可能な発展」とは何か、を考察する。次に目を転じて地域の自然ではあるが、ひとまとまりの生態系と考えられる「内湾流域圏」の保護・保全の考え方を紹介するが、それ以前に出てきた概念や考え方や方法が、この場面でもまた当てはまり、役に立つことを理解する。以上の流れをたどることで「自然環境保護・生物多様性」の基本問題を理解することができる。
気候変動問題	人類は大気圏に暮らしている。従って、「異常気象や気候変動の仕組みを学ばざる者は地球温暖化問題を公で語るべからず。」と言っても過言ではない。地球温暖化を正しく学ぶための不可欠な分野が気象学・気候学である。人為による温室効果ガスの増加によって、猛暑や暖冬多、豪雨の多発、北極の海水の減少が起こるのであれば、それらはどのような仕掛けで起こるのですか? 皆さんはそれにきちんと答えられますか? この科目では、これらの答えを導くための基礎となる気象と気候システムのダイナミクスの基礎を講義する。
コミュニティ&インバウンド	長年その地域に存在する住環境はいろいろな意味で持続可能であることにより、継続的に存在してきた。しかし急速な社会の変化によって、多くの地域コミュニティが衰退し、その結果過疎化が進んだり、逆に都市部に人口が集中するなどして人類の福祉が毀損される事態が生じてきた。本基礎分野では、環境価値を活用することにより地域コミュニティにおける人・もの・経済の流通を活性化し、特にこれらの外部からの流入を継続的なものとしてその地域の持続可能性を促進するための方法について学ぶ。その事例として地域の豊かな自然を生かした産業振興や、観光インバウンドの需要を喚起する手法、あるいはエコツーリズムの考え方などについて学ぶ。
環境経済・経営、ESG	本授業は、「環境問題がなぜ起こるのか」「社会が環境問題を解決するための仕組みは」といった根源的な問いを考えるために、経済理論を使って考え、同時に現実の環境対策にどのように応用されてきたかを解説する。そのうえで、環境ビジネスの理論と実際について解説する中で、現代社会における企業の環境経営の意義、特に近年注目を集めるESG投資などの社会的投資について、その背景と重要性を講義する。

※上記概論以外の詳しい選択科目の内容は「WEBサイト」<https://scienv.mie-u.ac.jp/> をご覧ください。